

需要期増産が期待されながら、都府県の生乳生産は減産に歯止めがきかないと報じられています。これからの時季は暑熱対策が乳量を大きく左右するので、まずは、乳牛が能力を発揮できる快適な牛舎環境の提供が管理者の役割となります。そして安定した経営には乳牛を健康に飼い続けることが最も重要です。

そのため、分娩前後に注意し、子宮脱、後産停滞、乳熱、第4胃変位等の周産期病を減らすこと、分娩後の泌乳の立ち上がりを良くし、乳房炎を予防すること、発情発見、授精、受胎等の繁殖周期を効率的に回していくことが大切です。

検定成績表からは牛群がどんな状況で授精されたかが判ります。具体的には「空胎日数が何日で受胎したか?」、「分娩前の乾乳日数が何日であったか?」を把握できます。空胎日数が長引く場合には、初回授精開始日の遅れに注意し、乾乳日数が長くなってしまった場合は過肥に注意しましょう。栄養不足による卵胞機能回復の遅れや発情の見落とし等が原因となりますが、その見極めは個々の牛の十分な観察、さらに検定成績表の個体の検定日成績を読み解くことで行ってください。